

2019年度 現代社会学科 最優秀論文

学籍番号 1622061 堀 樹浩（観光学・地域再生コース、指導教員：清野隆）

「アウトドアツーリズムを通じた地域資源の保全活用と関係人口に関する研究」

優秀論文発表大会における12人の研究発表は、「発表（説得力があるか）、スライド・配布資料（わかりやすいか）、オリジナリティ（独創的か）、構成（論理的か）、結論（妥当か）」という5項目について、5段階で評価され、その集計の結果、最優秀論文が選出された。

該当論文は、アウトドアツーリズムの定義、理論、現状について関係人口という切り口から整理し、現地でのフィールドワークに基づいて、課題の整理とその解決へ向けた取り組みについての確にまとめられている点が評価された。また論文の構成のみならず発表自体の準備も丁寧になされており、フローチャートやグラフを効果的に活用していたので、内容がわかりやすく伝わった点も評価された。

先の5項目では、「構成」と「発表」の評価が12人中1位、「結論」と「スライド・配布資料」は2位、と高かったが、「オリジナリティ」が8位と比較的振るわなかったのは、より掘り下げた分析への期待の裏返しだと思われる。

## アウトドアツーリズムを通じた地域資源の保全活用と関係人口に関する研究

社会学部現代社会学科 1622061

指導教員 清野 隆

堀 樹浩

### 要旨

近年の「担い手不足」の社会的課題解決において貢献が注目される「関係人口」と導入になる「テーマ別観光まちづくり」について改めて考察した上で、高まりつつあるキャンプブームによって訪れる人々が地域との関係を創出すること、アウトドア企業の地域活性化への社会的責任の所在について考察し、アウトドアツーリズムの持続可能性について明らかにすることを目的としている。

第1章では、本論文における社会的背景、研究の目的、研究の方法について述べている。

第2章では、文献調査（web含む）を用いて、都心への人口集中や少子高齢化の加速によって引き起こされる、担い手不足の問題について整理する。解決において貢献することが注目される「関係人口」について確認し、この人々の出現に繋がったモノ消費から付加価値を追求する価値観への変化があることが分かった。関係人口の取り込みは各地で実施または試行されており、その導入として「テーマ別観光まちづくり」への期待が高まっていることが分かった。

第3章では、文献調査（web含む）を用いて、アウトドアツーリズムの変遷について整理し、そこからキャンプの楽しみ方の変容や資源の活用について述べる。現在のキャンプブームの原因として6つを挙げ、多面的に分析をした上で、キャンプをするという目的だけで訪れるとは一概に述べられず、楽しみをあらゆる方法で追及することで、地域のファンとなり得ることが分かった。

第4章では、文献調査（web含む）を用いて、アウトドアツーリズムを通じた地域資源の保全活用の事例として、アウトドア企業である snow peak を例示し、どのような資源が活用され、どのような観点が重んじられているかについて分析した上で述べる。自然資源を対象とするアウトドアの既成概念を覆し、文化的資源を取り入れることで地域をより感じられ、同時に関係人口の獲得に対し訴求力のある取り組みであることが分かった。

第5章では、2年次からの計6回の現地調査を通じた結果を踏まえて、佐渡市宿根木集落で、第4章と同様のことを行うと仮定した上で、見えてくるアウトドアツーリズムの持続可能性や共通して重んじられる価値観について述べる。自然資源や文化的資源を創出し、介在する住民といった人的資源も同等に重要であることが分かった。その上で、実現のために弊害となる課題や活用余地のある資源について検討し、提案をした。

第6章では、これまでの本論文の結論を述べる。